

令和4年度

つながりひろがる  
地域づくり事業

報告書



# 目 次

No.	事業名	実施団体名	ページ
1	安心安全な農を学び 実践しよう	Eisbar Platz	2
2	エジソンの母塾と 笠地蔵プロジェクト	学習支援センター 実帰舎	9
3	食と健康の情報発信	食養生研究会	13
4	岩原のたからをガイド ブック片手に楽しもう	岩原の自然と文化を 守り育てる会	16
5	国営アルプスあづみの 公園及び周辺の鳥獣 被害対策活動	あづみの樹楽会	18
6	古文書学習の阿遊美 第10輯発刊	安曇野古文書勉強会	21
7	シュタイナー教育の視点 から多様な教育に ついて考えよう	安曇野シュタイナー学校 設立準備会 なないろの環	24
8	おうちワークショップ	おうちワークショップ	28
9	信州こどもカフェ	一般社団法人 穂高児童クラブ	32
10	子どもカフェ むぎむぎクラブ	むぎむぎクラブ	35

## 事業名

## 安心安全な農を学び実践しよう

<b>団体名</b>	EisbarPlatz		
<b>代表者名</b>	大島 和美	<b>構成人数</b>	6人
<b>活動拠点所在地</b>	安曇野市穂高柏原 942-3		
<b>事業実施総額</b>	400000円	<b>補助金額</b>	200000円
<b>主な補助金使途</b>	講師料・会場費・農作業で使用する備品購入		
<b>事業実施日・期間</b>	4月1日～3月31日まで		
<b>事業概要・成果</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度自分たちが自然農で育てた大豆を種として、自然農法国際研究センターよりご指導いただき、実際に畑で実践し、みんなで学び・体験する。</li> <li>・自分たちで農作物を作ることにより、その楽しさ、大変さ、食の安全性、おいしさを体感し、子供たちから大人まで、みんなで食や環境、農について考えるきっかけを作る。</li> <li>・今年は安曇野市有明の畑にて、無農薬、無施肥、無除草剤で大豆を育て、夏には採りたての枝豆を、秋には大豆収穫し冬に味噌を仕込んだ。</li> <li>・コロナ禍で、多くの人を集めたイベントはなかなか難しかったが、オンラインなども工夫して、講習会、豆板醤作り、お菓子作りなどイベントも開催した。さつまいもも育て焼き芋会開催。</li> <li>・2020年度の途中からご縁があり、塩尻の田んぼでの稲作りの学びも始め、引き続きそちらともコラボしながら食全体を考えていきたい。</li> <li>・安曇野市、松本市、塩尻市の様々な農業に関わる方とお会いするご縁をいただき、さらにマルシェやホコ天に出店する機会をいただき、子供たちにとっても多くの学びの場となった。</li> </ul>		

<p><b>今後の展開</b></p>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 2022 年度は、大豆の収量を上げるために、雑草対策として 2021 年度から引き続き、耕運のタイミングや種まき、除草の時期の工夫、さらには身入りの際の水管理をしたことで収量がやや増加した。</li><li>• 2023 年度は連作障害対策を含め面積を広げ、今までの成果も生かして収量や作業効率のアップを図りながら、環境や自然との循環についても学ぶ機会を提供していきたい。</li></ul>
---------------------	--

2022年6月4日

耕運



2022年6月18日

大豆播種

サツマイモの苗を植える



2022年7月1.2.3日

テグス撤去

畝上げ

除草

草刈り



2022年7月18日

畝上げ

除草



2022年8月15日

除草



2022年9月3日

「農業や化学肥料に頼らない家庭菜園作り」講義



2022年8月23日

サツマイモ周りの除草



2022年9月22日

枝豆収穫





2022年10月15日  
島立て



2022年10月22日  
サツマイモ堀り



2022年10月30日  
脱穀



2022年11月19日  
焼きいも



2023年 2月19日  
味噌作り



## 事業名

## エジソンの母塾と笠地蔵プロジェクト

団体名	学習支援センター実帰舎		
代表者名	家田典和	連絡先	57-6203
活動拠点所在地	塩尻市大門一番町 12-2 塩尻市市民交流センター協働オフィス	構成人数	18名
事業実施総額	460,698円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	安曇野市民への不登校実態の理解啓蒙と不登校生徒らへの学習支援		
事業実施日・期間	令和4年(2022年)4月～令和5(2023年)3月		
事業概要・成果	<p>① 9月3日に「不登校講演会」を開催した。 2頁目 写真信濃毎日新聞9月16日号</p> <p>② 子ども食堂の運営団体のホットライン信州との連携を始めた。貧困母子家庭へのパソコン支援及び情報科教育の学習支援を行った。 また、子ども食堂の開催協力のため、紙芝居公演で、食材を手にした貧困層の母と子へのお楽しみ提供と季節感ある物語を語った。小学生らに紙芝居上演の方法を学習支援の一環として教えた。</p> <p>③ 電子辞書とパソコンを駆使した漢字検定と実用英語検定の勉強会を2回/月の頻度で開催をしている。小学生兄弟で漢字検定3級(兄),5級(弟)、ホットライン信州の姉妹で4級、6級の結果が出た。</p>		
今後の展開	<p>① 本年度令和4年(2022年)度には、学習支援の軸足をこれまでの不登校生徒だけだったものから、貧困母子家庭の生徒さんへの情報教育支援と紙芝居作り指導へと移ることができた。</p> <p>② 2022年4月に通信制高校に入学した女子生徒さんは、中学校3年間の勉強の遅れを取り戻し、2023年1月にファイナンシャルプランナー3級の資格試験受験し、3月に秘書検定3級受験の勉強に着手している。</p>		



# 中信

## 塩尻の団体を利用の通信制高生・小池さん

# 不登校の子どもを紙芝居で助きたい

## 中学時代の経験を発表

通信制高校に通う生徒を支援する塩尻市の「学習支援センター 実帰舎」を利用する高校1年の小池(こいけ)さん(17)が、中学校時代の不登校の経験を紙芝居にした。同じ境遇の子どもの参考になるよう、今月初めて人前で発表。自分のつらい経験が役立つかもしれないと手応えを得たとい、不登校を支援する活動に携わりたいとの思いを強くしている。

小池さんは県内在住で、大先輩を目指し、実帰舎が運営する高野山高校(和歌山県高野町)の広域通信制課程で学んでいる。この夏、実帰舎の冨田典和校長が不登校の経験を紙に書くよう提案。中学1年の秋から卒業まで登校できなかった際の思いをつづり、悩む自身の姿を絵で添えて8枚の紙芝居にまとめた。



不登校の経験を紙芝居で発表する小池さん

題名は「私の不登校になった三つの理由」。小学生の頃、男子との仲について立てられたわきが中学でも広がり「ずっと付きまといるのはないか」と思って不登校になった」と心境をつづった。

変化のきっかけの一つは不登校の生徒が週一回、中学で教員と語る交流会。2年の冬に参加すると、もともと好きだったアクセサリー作りの話に花が咲き、自作の作品を教員に販売する機会もあった。次第に人との交流に自信が持てるようになったという。

今月上旬、安曇野市内で不登校の子を持つ保護者ら11人の前で紙芝居を披露。時折、声を詰まらせながら最後まで読み上げ「不登校の子には自分に合った活動を見つけて、学校以外の人間関係をつくってほしい」と締めくくった。会場から拍手が起き、赤くなった首元を手で拭いた。

「不登校は思っていたよりも自分の傷になっていた」と小池さん。それでも紙芝居の披露を続ける思いに変わりはなく、今後不登校の子どもが居場所をつくることも念頭に、自分ができることを考えている。

2022年9月3日(土)の不登校講演会の前座で「不登校紙芝居」を上演した実帰舎の生徒さんの取材記事。



この女子生徒さんは、文字が綺麗なことが長所です。真言宗の寺院にて「般若心経」を筆ペンで丁寧に時間をかけて仕上げました。心の平安を得る行為を身に着けたことは、大きな成長なのでしょう。



平出博物館の展示品に着想を得て、紙芝居を制作している小池さん

## 展示品から着想 紙芝居に

### 小池さん 19日塩尻で披露

## 平出博物館

高野山高校(和歌山県)の広域通信制課程1年生で、週に1回、塩尻市内のサポート校「学習支援センター実帰舎」に通う小池礼恩さん(15)が、平出博物館の展示品に着想を得た紙芝居を制作している。19日に市民交流センター・えんぱーくで開かれる「しおじりまちづくりフェスティバル2022」で初披露する。(細野はるか)

題名は「翡翠物語」。化した部族長の娘と、塩尻平出の縄文時代の黒曜石を擬人化した隊「お話し」。ヒスイを擬人 商の隊長が会おうロマ



小池さんが着想を得たヒスイの勾玉の首飾り(平出博物館寄託品)

フェスティバルは午前10時〜午後3時。小池さんは実帰舎のブースで随時上演する。

ンスを描く。社会科学見学で訪れた博物館で見たヒスイの勾玉の首飾りや黒曜石の矢尻に着想を得て、8月中旬に制作を始めた。もともとアクセサ

リーが好きで、古代の装飾品や交易の歴史に興味を持ったという。B4判画用紙に水彩色鉛筆で描いており、10枚程度となる予定だ。小池さんは中学校時代に不登校を経験し、広域通信制課程がある高野山高校に進学した。紙芝居役者でもあった。紙芝居役者でもあったことを知り、縄文文化を身近に感じてほ

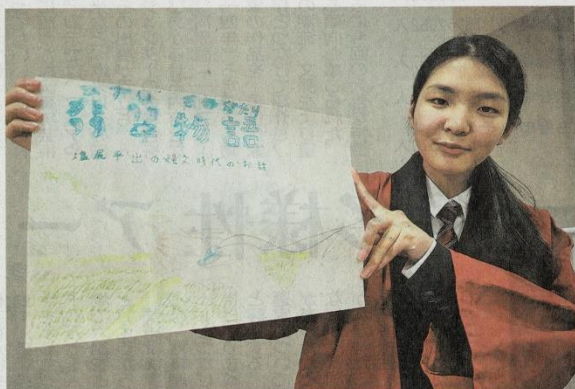
られ、紙芝居の制作や上演を始めた。自作の紙芝居は2作目となる。上演時は臨場感を大切にす。小池さんは「役を演じ分けるのが楽しい」と笑顔を見せ、「縄文時代から塩尻に交易の歴史があったことを知り、縄文文化を身近に感じてほ



長野支局  
長野市中野町岡田4-5  
(〒380-0936)  
026(228)1456  
FAX 026(228)0587  
nagano-s@chunichi.co.jp

松本支局  
松本市深志1-1-19  
(〒390-0815)  
0263(32)3453  
FAX 0263(38)7800  
(広告) (87)8953  
matumoto@chunichi.co.jp

# 自作紙芝居「表現楽しい」



制作中の紙芝居「翡翠物語」を手にする小池さん。塩尻市の市民交流センターえんぱくで。

## 不登校経験した高1・小池さん

中学時代に不登校の経験がある通信制高校一年の小池礼恩さん(16)が、今夏からオリジナル紙芝居の制作に励んでいる。一作目は自らの不登校経験を紙芝居にまとめた。今は塩尻市の平出遺跡から出土したすいすいの勾玉を題材にした一作目「翡翠物語」を制作中で、十九日の「しおじりまち」へリフレニア「パール2022」での初披露に向けて、完成を目指している。

(倉形友理)

## 塩尻で19日新作披露 平出遺跡出土の勾玉題材

小池さんは県内在住で、今春から高野山高校(和歌山県高野町)の広域通信制課程で学ぶ。同校のサポート校の「学習支援センター実働舎(塩尻市)を週に一度利用し、対面での指導を受けている。紙芝居を自作し、各地で上演する実働舎校長の家田典和さん(53)の誘いをきっかけに、小池さんは今春から、毎月第四土曜日に松本市の松本駅前記念公園で開かれる信州子ども食堂で、紙芝居や絵本の読み聞かせを行ってきた。制作に挑戦するようになったのは八月からで、一作目の題名は「私が不登校になった三つの理由」。自身の経験と向き合い、紙芝居にまとめ、九月には不登校の子を育てる保護者らを前に披露した。

制作中の翡翠物語は、七月に訪れた塩尻市立平出博物館で展示されていたすいすいの勾玉から着想を得た。縄文時代を舞台に、新潟・糸魚川と平出の交易を描く。さらに糸魚川の隊商の隊長と、平出の部族長の娘とのロマンスの要素もある。筋書きやキャラクターの設定は、家田さんと情報交換を重ねる中で形にしていく。絵は一人で担当し、B4判で八十枚ほどに仕上げた。不登校だった中学時代に、家族以外とほとんど話をすることがなく、「だんだん声小さくなっていった」という小池さん。今では「キャラクター一人一人の声を表現することが楽しい」と生き生きと話す。

翡翠物語にはキャラクターが四人ほど登場する予定だが、一人で演じ分ける。聴衆の子どもの顔をしっかりと見て紙芝居を披露するため、裏面にはあえてせりふを書かず、暗記をして本番に臨む予定だ。平出にずっと昔から交易の文化があったことを知ってほしいと思いを込める。

紙芝居に打ち込む小池さんを見て、家田さんは「声がよく出るようになり、お客さんと会話のキャッチボールもできるようになった」と変化に目を細める。紙芝居の技法をどんどん伝授し、来年度も協力して紙芝居を制作するつもりだ。

十九日のしおじりまちづくりフェスティバル2022は、塩尻市の市民交流センターえんぱくで午前十時~午後三時に開かれる。小池さんは随時、紙芝居を披露する。

市民タイムス  
2022年11月10記事

実働舎の教諭スタッフの活動  
不登校生徒と親御さんのための「高校説明会」参加  
中信教育委員会が主催  
11月1日松本合同庁舎  
11月2日伊那合同庁舎  
11月19日諏訪合同庁舎  
12月16日松本合同庁舎

子ども食堂への紙芝居協力では、食材を確保し、暖かい食事を受取った母と子が、季節に応じた紙芝居を観てから帰ります。

12月30日の子ども食堂では、ハーモニカで滝廉太郎の「お正月」を演奏してから、紙芝居上演を行いました。

# 平和、暮らし 揺れた一年



年越し子ども食堂で、紙芝居を見ながら食事をする来場者

令和4年も残すところあと1日となった。新型コロナウイルスの感染が収まらず、物価の高騰に耐え、ロシアのウクライナ侵攻に心を痛めた一年だった。中信地区では30日、笑顔で新年を迎えられるようにと、各種団体が善意の活動に取り組んだ。(石川結美、田中祥子)

## 「来年こそ平穏に」願い切実

年越し子ども食堂に180人  
松本市の島内公民館では、NPO法人ホットライン「信州」(松本市寿北5)が「年越し子ども食堂」を開き、約180人が訪れた。持ち帰り用の手打ちそばや日用品、温かい料理が提供された。子供2人と一緒に来た母親(45)は「いろいろいただけ助かる。大勢の人と食事ができて楽しい」と喜んでいて、青木正照専務理事(78)は「生活が苦しい人たちは、「コロナ禍で疲れ切っているところに物価高騰で三重苦になっている」と現状を話し、「一人のつながりが大事にして難局を乗り越え、笑顔で健康で年を越してもらいたい」と、来年こそは平穏な年になることを願っていた。

## 事業名

## 食と健康の情報発信

団体名	食養生研究会		
代表者名	辻野 将之	構成人数	約 80 人
活動拠点所在地	穂高有明		
事業実施総額	927,800 円	補助金額	200,000 円
主な補助金使途	勉強会等講師料・会場設備代		
事業実施日・期間	2022 年 4 月～2023 年 3 月		
事業概要・成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業概要</li> </ul> <p>日本に古くから踏襲されてきている、食と健康の叡智である食養生について学び、また情報の発信を通じて啓もうし、地位住民の健康に寄与する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成果</li> </ul> <p>基本、毎週木曜日の午前中に活動。約 30 回の開催が実施され、毎回 10 名前後、のべ約 250 名の参加がありました。</p> <p>新規会員登録に加え、また未入会ながらスポット参加の方も多く、トータル計画以上の方々に食養生の魅力を発信できた。</p> <p>地域の活性化及び参加者の健康意識の向上が得られ、地域の方々の健康意識の向上と予防及び事故対処方法を身に着ける一助となれた。</p>		
今後の展開	<p>今年の成果を良いモデルケースとして、来年度も同様の企画を執行し、より多くの地域の方々に浸透させていきたい。</p> <p>特に勉強会以外の実技的なイベントをより多く組み込めればとも考えている。</p> <p>そのための新たな会場や圃場の確保が出来ており 2023 年度より使えるように絶賛準備中（そのため本年度は開催回数も減った）で、来年度の活動規模拡大が期待できる。また、新型コロナ騒動も収束しそうな報道がされており、来年度こそは予定を崩さずにイベント開催ができることを願っている。</p>		

通常の開催時は自然の中で体操や太極拳など身体を動かし「気」をめぐるところからはじまる。お茶と共に勉強会。参加者がおやつを持ち寄ることもあります。



会場に来られない人も、画面越しに対面参加が可能に。講師の誘致もしやすくなり、画面越しの講義だと経費の削減にも。



昨年自分たちで育てた米を使った麴からの味噌づくり。



今年も藤澤さんのところで自然栽培の苗作り参加させてもらいました。園児たちも田植えをしてくれました。



田植をしながら、お昼は昨年、この田んぼで収穫したササニシキほかで腹ごしらえをします。





講師を招いて、野外でのワークショップ。この日は晴天で心地よい陽気の中、ヤムナを体験。



津村農園では循環型農業の最先端である津村農園他、多数の訪問体験。また、醤油しぼりなども楽しみました。



稲刈りは、保育園から園児とその父兄など数日にわたり多くの方に体験してもらいました。はぎ掛けで天日干しされたお米は格別です。脱穀後の藁も子どもたちには最高の遊びと学びの場。工夫して家やトンネルを作成。



大人も子どもも楽しいお餅つき。今年も何度か開催され杵と臼での突き立てのお餅を堪能しました。



以上  
現在活動継続中のため途中経過（活動は3月末まで）



## 事業名 岩原のたからをガイドブック片手に楽しもう

団体名	岩原の自然と文化を守り育てる会		
代表者名	百瀬 新治	構成人数	62
活動拠点所在地	安曇野市堀金烏川 岩原区内		
事業実施総額	440,000	補助金額	200,000円
主な補助金使途	岩原区内文化施設等岩原のタカラ解説板作成及び、標柱資材		
事業実施日・期間	令和4年4月5日～令和5年3月20日		
事業概要・成果	<p>ガイドブックに掲載されている「岩原のタカラ」について、個別に案内板を作成し、現地に設置した。総計30地点での設置を実施し、タカラ巡りを行なう際の案内や内容説明が表示できて、よりわかりやすく楽しい見学が可能になったと好評である。</p> <p>タカラ巡りは月1回実施され、令和5年1月現在9回開催でき延べ参加者数304名と活況を呈している。参加者の中には県外市外から来訪する人もあり、安曇野の魅力を現地で体感する活動の広がりや着実に進んでいる。</p> <p>会代表がブラタモリに出演したことを契機に、安曇野の良さが周知され来訪を希望したりガイドブックを購入するケースが多くなり、市民参加型の活動目的に合致した実践がさらに活性化しつつある。</p>		
今後の展開	<p>解説板は残りの約30か所に設置すべく準備中であり、完成すると全体で60か所程で連結ができる予定である。来年度予定の事業が実現できれば、タカラ巡りの道案内や現地説明がより効果的にされる。</p> <p>タカラ巡りは、見学コースや内容に工夫を加えて月1回開催を継続する予定であり、地域の魅力に現地で触れて楽しむイベントとしてさらに充実させていければと考えている。</p>		

## タカラ巡りの様子（抜粋）

2025・11（土）材刈シミ観察会



2022・6・11 身近な道祖神を訪ねる



2022・9・10（土）古墳と遺物に触れる



案内看板（抜粋）



## 事業名 国営アルプスあづみの公園及び周辺の鳥獣被害対策活動

団体名	あづみの樹楽会		
代表者名	渡辺晃	構成人数	18名
活動拠点所在地	安曇野市堀金・穂高地区		
事業実施総額	246,000円	補助金額	123,000円
主な補助金使途	活動保険代、講習会講師費用、活動消耗品、道具購入他		
事業実施日・期間	2022年7月1日～2023年3月31日		
事業概要・成果	<p>【事業概要】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7月にアルプスあづみの公園で、伐倒講習会を開催。</li> <li>7月～9月：その後公園と話し合いを持ち、鳥獣被害対策のイベントを企画したが、雨天のため中止となった。 堀金地区農地のナラ・桜などの樹木伐採</li> <li>9月～23年3月：周辺への働きかけの中で、穂高立足区の住民が鳥獣被害対策として、リンゴ・栗・クヌギや支障木の伐採を、行いたいとの事で、協力して活動を実施した。</li> </ol> <p>【成果】 目的の達成状況は、以下の通り。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>アルプスあづみの公園、市民と、猿・クマなどの鳥獣被害対策活動の協働を模索する。 ⇒公園との協働、穂高立足区の住民と共同活動ができた。 立足区の住民の方からは、サルの出没の回数が減ったとの声を頂いています。</li> <li>市の耕地林務課、さとぷろ。と、連携した市民参加の活動を推進する。 ⇒市・耕地林務課の協力のもと、伐倒講習会を企画し、市民やさとぷろ。サポーターに呼びかけ、10名の参加があった。</li> <li>初心者も参加しやすいフィールドのため、里山再生活動に参加する新たな仲間を増やし、活動を通して育成を図る。 ⇒伐倒講習会の参加者や、さとぷろ。サポーターの参加で、新たに5名の継続的な参加者ができた。また他にも活動参加希望者が数名います。</li> </ol>		

<b>今後の展開</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 23年度も継続して、アルプスあづみの公園周辺の鳥獣被害対策活動を継続します。</li><li>2. 市の耕地林務課、市民活動サポートセンター、さとふる。サポーター等と連携した活動を進めます。</li><li>3. 地区・地域住民の伐採に関する要望に、応えることができるような取り組みを行います。</li></ol>
--------------	--

伐倒講習会  
(アルプスあづみの公園)



講習会参加者



講習の様子

公園イベント 猿蟹合戦  
(雨天のため中止)

堀金地区の農地での伐採



ナラ（どんぐり）の伐採



あづみの公園の栗の木の下見

穂高立足区の鳥獣被害対策  
伐採活動



伐採前のリンゴの木



伐採後



伐採前の栗の木



伐採木の搬出



救急救命士会員による安全講習会



<https://youtu.be/CyLfSQQt00?>

立足区作業風景動画

## 事業名 古文書学習の阿遊美第10輯発刊

団体名	安曇野古文書勉強会		
代表者名	渡辺 晃	構成人数	24名
活動拠点所在地	穂高会館・市文書館		
事業実施総額	155.000円	補助金額	77.000円
主な補助金使途	一般市民と野外研修・冊子編集・印刷代など		
事業実施日・期間	令和4年8月1日～令和5年2月28日		
事業概要・成果	<p>安曇野古文書勉強会は、会員の約半数が毎週金曜日市の文書館で古文書の調査を行っている。この調査の中から、研究対象となる文書を選び出す。</p> <p>この文書の研究担当者は、文字を解読し、内容、言葉の意味、時代背景、関連文書、文書には書かれていない内容にまで探求する。</p> <p>この研究結果を担当を替えて、毎月1回の勉強会で2編ずつ発表する。</p> <p>9月には、市民タイムスを通じ、一般の市民にも呼びかけ古厩と有明地区で野外研修を行った。</p>		
			
	令和4年9月21日野外研修 有明山神社にて		

10月には、公民館主催という形にして外部講師による公開講座を企画し、広報にて募集して一般市民7名の応募があった。



令和4年10月19日  
公開講座  
講師は後藤芳孝先生

「古文書学習の阿遊美第10輯」には令和1年からの4年間の研究をまとめた。

令和5年2月の勉強会も公開とし、広報を通じて一般市民を募集し5名の参加があり、刷り上がったばかりの阿遊美第10輯を配布した。



令和5年2月15日  
公開勉強会



令和5年2月13日  
刷り上がり100セット



	<p><b>成果</b></p> <p>一般市民に参加を促し、呼び掛ける告知が増え古文書に対する関心が高まった為か、現在文書館で行われている初心者講座は募集定員をオーバーした。この初心者講座に使用されているテキストの作成と講座の補助員として当会が関わっている。</p> <p>「古文書学習の阿遊美第10輯」の発刊が市民タイムスで取り上げられ、広く知れ渡ったためか、問い合わせも多く寄せられている。塩尻市の図書館からも蔵書に加えたいという要望が来た。</p> <p>今回の「古文書学習の阿遊美第10輯」には初めて世に出る文書が多く、中には南安曇郡史や松本市史にも記載されていない事実の発見も収録されている。</p> <p>「古文書学習の阿遊美第10輯」は市内・松本市・塩尻市・県の図書館で誰でも閲覧できる上、従来より発行部数を増やすことが出来た為、より多くの古文書に関心を持つ方や、歴史を研究する方々に配布が可能となった。</p> <p>安曇野市史の編纂にも役立つ資料ともなり、未長く市民の財産となる事が期待できる。</p>
<p><b>今後の展開</b></p>	<p>今回の補助金を受けるにあたり、「広く地域の人達に」と云うコンセプトの重要性は認識できた。</p> <p>今後は、活動をよりオープンにし安曇野の歴史と文化を下支えしていきます。</p>

## 事業名 シュタイナー教育の視点から多様な教育について考えよう

団体名	安曇野シュタイナー学校設立準備会 なないろの環		
代表者名	西牧琴美	構成人数	4名
活動拠点所在地	〒399-8303 長野県安曇野市穂高有明9068-1		
事業実施総額	153,310円	補助金額	76,000円
主な補助金使途	シュタイナー教育の理解と認知度を広げるための講座等		
事業実施日・期間	2022年10月～2023年3月		
事業概要・成果	<p>①10月22日23日に、市民フェスタにてシュタイナー教育の紹介ブースを設置。シュタイナー学校の説明パネルを通じて多くの参加者に知っていただき、子どもたちがシュタイナー教育の現場で行われる手仕事を体験していただきました。</p> 		

②11月6日に、東京理科大学教育支援センター教授 井藤元先生によるオンライン講座を開催。「多様な学びについて考えよう。シュタイナー教育とはなに？」をテーマに、シュタイナー教育を初めて知る方々に対して講座を行いました。当日はオンラインライブチャット形式で活発なコミュニケーションが行われ、全部で55名の方に参加・視聴していただきました。

「マンガでやさしくわかるシュタイナー教育」著者が登壇！

～多様な学びについて考えよう～  
**シュタイナー教育**  
ってなあに？

**11/6【日】 10:00~11:30**  
オンライン開催（アーカイブあり）  
講師：井藤元氏



子ども観、人生観、教育観の連動

```
graph TD; A[子ども観] --- B[人生観]; A --- C[教育観]; B --- C;
```

③1月28日に、イギリス法人e-Waldorf International Ltd. 代表取締役の石川華代先生によるオンライン講座を開催。石川先生の活動拠点である英国ロンドンから、「こどもの成長と発達」をテーマに、0～21歳までのこどもの各成長に対するシュタイナー教育のアプローチを紹介。全部で35名の方に参加・視聴していただきました。

"シュタイナー教育に興味はあってもシュタイナー学校に通わせることは難しい"  
"家庭でどんな子育てをしたらいいのかも、はっきりとわからない"  
……子育て期をともにわかち合いませんか？

令和4年度安曇野市つながりひろがる地域づくり事業

## こどもの成長と発達

～今日からの子育てを楽しむために～

2023年1月28日(土) 21時～ zoom開催

講師 シュタイナー教育と文科省教育をつなぐ  
e-waldorf代表 石川華代

主催 安曇野シュタイナー学校設立準備会  
なないろの環

The poster features a central illustration of two hands holding each other, with a circular inset photo of the speaker, Kazuko Ishikawa, smiling. The background is a soft gradient of yellow and orange.

### 4年生～中2の子育て

- 5年生まで 伝記など世界の美しいものを  
体験重視
- 6年生～ 少しずつ距離をとりながら見守る（手を出しすぎない）  
ユーモアで対応する  
一人の空間を尊重する
- 親よりも専門家に  
子どもに判断させない  
（話や意見を聞くが、親の意見をしっかりとって  
大事なことは子どもの言うがままにさせない）

The slide has a light, abstract background with soft colors. A small video feed of the speaker is visible in the bottom right corner.

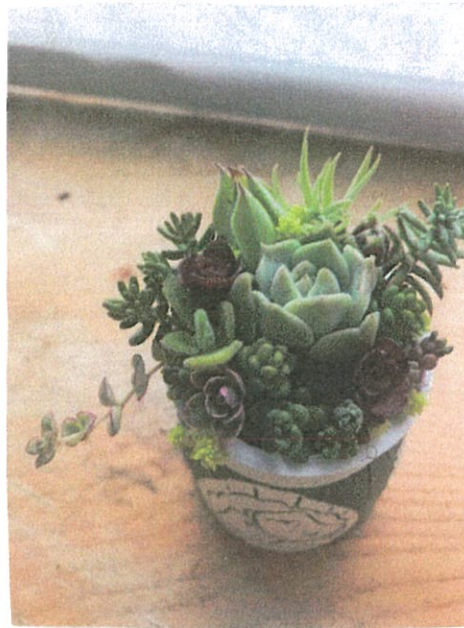
④3月25日に、横浜シュタイナー学校の先生である伊藤雅子先生を安曇野にお招きし、大人向けにシュタイナー学校の授業体験を開催予定。当日は託児できる体制を整え、伊藤先生に学童期の子どもの本質を捉えた話をさせていただきます。

	<p>—2月時点までの成果—</p> <p>SNSやチラシ掲示・配布を用いた講座告知をする事で、安曇野でシュタイナー学校設立に向けての活動が始まったことを全国に発信することができました。その結果、入学のために移住を検討する方々からの問い合わせや、県内外の教育関係者からも応援もいただけるようになりました。</p> <p>又、安曇野地域の幼稚園に通う保護者や関係者にとっても、あらためてシュタイナー教育とは何か、オルタナティブ教育と比較した際のシュタイナー教育の特徴を講座を通じて学ぶことができました。これらの学びが安曇野でのシュタイナー学校設立に活かされ、安曇野が提供できる教育の多様性に繋がっていきます。</p>
<p><b>今後の展開</b></p>	<p>2022年度はシュタイナー教育の理解度を深め、安曇野で認知度を広げる活動をしてきました。2023年度は主に校舎の準備や教員の募集等、シュタイナー学校を形にしていく活動に注力していきます。</p>

## 事業名

## おうちワークショップ

<b>団体名</b>	おうちワークショップ		
<b>代表者名</b>	田中京子	<b>構成人数</b>	6人
<b>活動拠点所在地</b>	安曇野市豊科 873-13(事務局)		
<b>事業実施総額</b>	110,000円	<b>補助金額</b>	55,000円
<b>主な補助金使途</b>	講師謝礼、チラシ印刷、物品購入 など		
<b>事業実施日・期間</b>	2022年6月～2023年1月まで		
<b>事業概要・成果</b>	<p>「こどもを中心に」子育てや日常生活のことを考えて、多世代交流を計ることを目的とした本事業ではありましたが、高齢の方との交流の場があまりありませんでした。</p> <p>原因としては、事業の内容または発信の仕方にあると思います。SNSや児童館あるいは育児雑誌における告知はできたのですが、どれも高齢者の目に触れるものではなかったです。そのような中、FM安曇野に出演できたことは大変貴重でした。しかし、本事業に協力して下さる店舗や個人の方もいらして、地域のつながりを感じることもできました。</p>		
<b>今後の展開</b>	<p>事業を展開していく中で、メンバーや参加者の強み(特技)を生かし、みんなで作りあげていきたい。</p>		



2022.6.19

多肉植物のアレンジメント

大人：5名  
子ども：5名  
スタッフ：2名  
講師 矢島 容子 さん

場所  
田中宅 (穂高温泉郷)

2022.7.9

保険の見直し

大人：3名  
スタッフ：2名  
講師 河合 暁子 さん

場所  
田中宅 (豊科)

2022/7/9(土)  
13:30~

場所：お問合せください  
(安曇野市内です)

保険の見直し  
貯蓄についての話



2022.8.6

ハンドマッサージ

大人：6名  
スタッフ：2名  
講師 高橋 ありさん  
他 1名

場所  
田中宅 (穂高温泉郷)





2022. 9. 25

こども園について

大人: 12名  
 こども: 5名  
 スタッフ: 7名  
 講師 藤澤律子さん  
 場所 (市. 相談係) 豊科公民館



2022. 10. 23

市民活動フェスタ

大人: 7名  
 こども: 6名  
 スタッフ: 13名

場所  
 穂高学習センター  
 (屋外)

2022. 10. 30

ハロウィンパーティー

大人: 12名  
 こども: 34名  
 スタッフ: 4名  
 学生 3名

場所  
 田中宅 (穂高温泉郷及 vicinity)  
 穂高温泉郷 周辺)







2022.12.18

### クリスマス会

大人：7人

子ども：10人

スタッフ：2人

講師 坂口直謙さん

場所

穂高公民館

2022.12.25

### 子どもマルシェ

大人：2名

子ども：2名

スタッフ：1名

場所

ハカレ



2023.1.29

### 粥作り

大人：16名

子ども：10名

スタッフ：3名

場所

ハカレ

## 事業名 信州こどもカフェ

団体名	一般社団法人 穂高児童クラブ		
代表者名	横尾 節子	構成人数	5人
活動拠点所在地	安曇野市穂高有明 2184-47		
事業実施総額	200,000円	補助金額	100,000円
主な補助金使途	物品購入、印刷代、郵送代、謝金		
事業実施日・期間	8/28、9/25、10/30、11/27、1/29、2/19、3/26		
事業概要・成果	<p>【概要】 学習支援、異世代との交流、物品提供、いろいろ相談、お絵かき・造形(粘土)教室体験会</p> <p>物品提供の様子 →</p>  <p>【目的】 児童の休日の活動を支援する。 児童の休日の居場所を支援する。</p> <p>【成果】 児童相互の交流が生まれた。 保護者相互の交流コミュニケーションが生まれた。 学校の様子・児童館の様子など情報交換ができた。</p>		
今後の展開	<p>松本・塩尻の方のこどもカフェにおいては、テイクアウトの物品提供だけでなく、他に日を設定などして学習支援にも取り組んでいるところがあるようです。</p> <p>遊びを発展させて、そこに行って何かに取り組み、学ぶ場所を目標にします。保護者の方にとっても心地のいい場所であればと思います。</p>		

2022年8月28日  
こどもカフェ

元気いっぱい兄弟が見えた。玄関を開け、目の前の2階への階段を見上げ、「家の中を探検したい」と言いました。みんなで「どっこいしょ」と2階へ。お母さんは窓からの眺めに見入っていました。1階へ降りてきて、お風呂が2つ。温泉の湯温67℃にびっくりしていました。

みんなで「安曇野かるた」や「トランプ」を楽しみました。マッサージが得意な方が来てくださり、皆さんリラックスしていました。

2022年9月25日

お菓子「いったい何グラムあるのかな？」とはかりで量ってくれました。



夏休みに遊びに来てくれたお友達が「このお風呂で水遊びをしたんだよ」と話すとお母さんたちも興味津々。「保育園の園庭でのパラソルを立てた水遊びみたい。しっかり日よけもあるしね」と言っていました。

2022年10月30日

安曇野かるたで遊びました。大人もこどももかるたは久しぶり・初めてで、安曇野のことを、かるたを通じて知る事ができました。10年以上前に作成してくれたらしいですが、寄付してくださいました。

2022年11月17日



安曇野かるた、トランプで遊びました。小学校低学年の子も、年長さんの子も大人も一緒に遊びます。

2023年1月29日

お絵描き教室体験会を開催しました。7人のお友達で大きな模造紙に100匹のうさぎの絵を描きました。小学校の子は、絵の具と筆で、年長さんはクレヨンでおもしろおもしろに描きました。



玄関横の壁に貼ってびっくり。「すごいものが描けたね。」

2023年2月19日

お絵描き・造形(粘土)教室体験会を開催しました。石粉粘土でおやきを作り、絵の具でおこげを色付け。「結構石粉粘土は重いね」という声が聞こえました。ラップで包んで、シールを貼りました。シール貼りは年長さんには難しかったけれど、小学生の子が手伝ってくれました。

「スクラッチ」で絵を描きました。画用紙に何種類かの色を塗り、その上から黒いクレヨンで塗り、細くした割りばしで絵を描きました。短時間で完成させ、みんな頑張りました。

## 事業名

## 子どもカフェむぎむぎクラブ

団体名	むぎむぎクラブ		
代表者名	太田 真理子	構成人数	13人
活動拠点所在地	安曇野市堀金烏川 1528-1		
事業実施総額	431,089円	補助金額	200,000円
主な補助金使途	子供カフェ食材、農作業備品、講演会謝礼		
事業実施日・期間	開始 2022年8月1日から、終了 2023年2月26日まで		
事業概要・成果	<p><b>1 事業の目的等</b></p> <p>私達は安曇野地域ならびに近隣市町村の子育て家族が集まり、食育活動や子供の居場所づくりをしている団体です。安曇野の農家から指導を受け、「小麦」の栽培体験をしています。主な目的は次のとおり。</p> <p>(1) 食育</p> <p>子どもたちと共に栽培した小麦は製粉うどん作りなどを行い、「こどもカフェ」という名前で1カ月に1回ほどイベントを開催。子供たちが自らのカフェを運営することで、食の大切さ、働くことの大切さに気付き、来場した地域の方々と交流するなかで、自分たちが暮らす地域を知る。</p> <p>(2) 子どもの居場所づくり</p> <p>生きづらさを感じる不登校児童や発達障害といった「子供たちの居場所づくり」に貢献。</p> <p>(3) 地域の循環型家庭菜園の推進のための啓蒙活動</p> <p>安曇野の豊かな自然の中でなるべく農薬などを使わず土中菌などを活性化させた「ぼかし」などを作り、循環型の小麦栽培を体験。「土づくり」や「循環型の家庭菜園」を地域の多くの家庭で取り組むことができるような勉強会を開催。</p> <p><b>2 事業の具体的実施内容</b></p> <p>(1) 小麦栽培体験を通じた子育て世代と地域の人との交流会を実施</p> <p>脱穀、畑への肥料まき、種まき、草刈りなどの作業を農家の指導により体験し、子供たちが農業の大変さ大切さを実感することができました。</p> <p>本事業により購入した備品により農作業を効率的に行えるようになり、道具を持たない参加者からも好評でした。</p> <p>(2) 「子どもカフェ」の開催</p> <p>子供たちが自ら企画や作業を行い、伝統行事などを取り入れたカフェを開</p>		

	<p>催。自ら栽培した小麦で作る「うどん作り」実施。本事業により食材などを購入し、子どもカフェを開催することができました。子供たちが食の大切さを知るきっかけとなり、来場者と交流を行い地域の繋がりが生まれました。</p> <p>(3) 啓蒙活動</p> <p>①「菌ちゃん先生」講演会を開催 2022年11月6日 堀金公民館</p> <p>循環型家庭菜園が多くの家庭で実践できるよう「土中菌」などを活用した「土づくり」を学ぶ勉強会をとして、メディアにも登場し全国的に有名な「菌ちゃん先生こと吉田俊道先生」を招へいし、土づくりのワークショップ及び講演会を開催しました。本事業により、高名な講師を招へいすることで、持続可能な社会にも貢献する「化学肥料・農薬を使用しない家庭菜園」を学ぶ機会を得、安曇野の豊かな自然のなかで、各家庭が安心安全な農作物を作る土台づくりができました。</p> <p>②広報活動</p> <p>本事業により、子供カフェの開催、講演会の開催を周知するチラシを作製しました。広く広報をすることにより、当会の目的のひとつである「不登校児童や発達障害を持つ子供たちの居場所づくり」の活動を知ってもらい、地域で子育てを応援する地盤として、安曇野地域の子供たちが輝くことを応援することの一端になったと思います。子どもが輝くことで住んでいる住民が幸せで健康的な生活を送れるようになること、循環型農業を通じて循環型社会が広く世に認知される一役を担うことができたと思います。</p>
<p><b>今後の展開</b></p>	<p>今後の活動内容</p> <p>(1) 小麦づくりの発展</p> <p>本事業を通じて購入した物品を活かし、子育て世代と地域の交流をめざし持続的に農作業を行う活動をしていきます。合わせて菌ちゃん先生から学んだ「循環型家庭菜園」を実践する場所を増やしていきたいと思っています。</p> <p>(2) 「子どもカフェ」の開催</p> <p>今後も継続的に「子どもカフェ」を開催し、「不登校児童や発達障害を持つ子供たちの居場所づくり」に貢献していきたいです。当会のこうした活動をまだ知らない親子も多く、広報に力を入れていきたいと思っています。子供のことで悩んでいる孤立しがちな親子さん方に、私たちのこうした活動を通じて、「一人で悩まなくていい」という提案をしていきたいと思っています。</p>

### 3 活動の様子

#### (1) 農作業の様子

親子そろって土に触れ、自らが食べる食べ物がこうしてできているという実体験をしています。

「あなたの身体はあなたが食べたものでできている」食育の基本を農産物を育てることから知っていきます。



#### (2) 「子どもカフェ」の様子

子どもたちが自分で育てた麦を使った小麦粉でうどんを作ります。作ったうどんはみんなで食べます。



(3)「菌ちゃん先生」講演  
会およびワークショップの  
様子

「菌ちゃん先生こと吉田俊道先生」を招へいし、土づくりのワー  
クショップ及び講演会を開催しました。安曇野市のみならず近隣市町村  
から多数参加し、みなさん熱心にメモをとりながら聞いておられま  
した。



午後は畑に出て実践





